

[特集02]

気になる後継者教育

親の教えと子の学び

地域経済対談

岡山市長 高谷茂男 ×

クロスカンパニー社長 石川康晴

INTERVIEW

美味社長 / 日吉光治

目指すは100年後も続く会社

コポ社長 / 中川知子

入院して気づいた社員の支えを経営に生かして



[特集01]

挑戦! 新規事業

意欲ある企業の進む道

時代の潮流

昭和の復権

特別企画

会社と社員を変える小さな工夫

WIZ BIZ REPORT

プロが選ぶ高品質の化粧筆
月1000円で手に入る新オフィス
介護食はごちそう志向へ

連載エッセイ

言わずにはいられない / さかもと未明
経済 時論・超論 / 山崎元
「営業の常識」解体論! / 藤本篤志

中小企業経営者を
応援する情報サイト

WizBiz

(ウイズビズ)

98ページ

取引情報
ニーズ・カプセル

36

件



バナナペーパー名刺(左)。右はペットボトル。環境保護に関心を持つ人を中心に支持される



名刺3枚分の情報を掲載できる、折りたたみ式の名刺も手がける



同社が扱う名刺は現在15種類。エコ名刺だけではなく、点字入りの名刺もある

名刺制作に本腰を入れました



丸吉日新堂印刷・阿部社長。創業者の父から会社を継ぎ、新規事業へと乗り出す

原動力はこれ!
前向きな意見を言ってくれる
仲間の存在

大手メーカーからの依頼で名刺の制作に注力
ペットボトル、バナナ、とうきび(※)……。これらはすべて、丸吉日新堂印刷で扱っている名刺「エコ名刺」の材料だ。
なぜ、こうした素材で名刺をつくっているのか。印刷需要減を見据えた上で、他社と差別化を図るためだ。そんな同社も、以前は名刺制作に力を入れていた。だが、近年は印刷業界が縮小傾向にある中、同社は「エコ名刺」の制作に注力し、独自の差別化を図っている。阿部氏は、その場でバナナペーパーを使った名刺づくりを決心した。
また、北海道ではとうきびが屋台で多く販売されているが、その皮は廃棄される。そこで、とうきびの皮から紙をつくった。同社スタッフが北海道ならではの名刺として、とうきびペーパーを使った名刺を提案。今では15種類もの素材を使った「エコ名刺」を扱う。環境への関心が高まる中、こうしたオリジナル名刺を扱うことで、

他社がやらないから勝機を見いだす
このペットボトル製の名刺を「エコ名刺」として売り出す一方、阿部氏はほかの素材で名刺をつくることも考えた。その一つがバナナペーパーを使ったものだ。
バナナを収穫すると茎が残る。これを使って紙をつくれれば、発展途上国で雇用が生まれ、木を切らずに済むため森林保護につながる。出席した講演会でそれを知った阿部氏は、その場でバナナペーパーを使った名刺づくりを決心した。
また、北海道ではとうきびが屋台で多く販売されているが、その皮は廃棄される。そこで、とうきびの皮から紙をつくった。同社スタッフが北海道ならではの名刺として、とうきびペーパーを使った名刺を提案。今では15種類もの素材を使った「エコ名刺」を扱う。環境への関心が高まる中、こうしたオリジナル名刺を扱うことで、

多くの印刷会社の手がける名刺の制作。だが、手間だけがかかり、利益が少ないのが実情だ。丸吉日新堂印刷(北海道札幌市)はそんな名刺に「エコ」の視点を取り入れ、新たな事業の柱と据えるべく奮闘している。
刺の制作を、利益の少ない仕事としか認識していなかった。
同社の阿部晋也社長は語る。「名刺の制作は、短納期が求められる、絶対に間違いは許されない。加えて手間もかかる」。たとえば2000円の名刺と10万円のチラシでは、利益は大きく異なるものの手間はほとんど同じ。印刷会社が規模拡大を狙うのであれば、名刺ではなく、チラシやパンフレットといった単価の高い仕事を増やそうと考えるのが一般的だ。
同社にとっても大きな売り上げを占めるのは、チラシやパンフレット、伝票などの印刷物だった。名刺の制作を依頼されても下請けに依頼する。だが、「下請けの会社」に「急いでつくって」と言うのが心苦しくなった(阿部氏)。その

顧客は全国へ拡大
エコ名刺で時代の波に乗って
彼らに支えられたと振り返る。
「何でもいから、実際にチャレンジをしたことがある人と話す。そうするとアドバイスをくれたり励ましてくれたりする。そんな人が周りにいたから、前向きにチャレンジできた」。貴重な仲間の存在によって、「エコ名刺」事業は軌道に乗った。
名刺は人との出会いの場で渡されるもの。阿部氏自身が、名刺がとり持つ一つひとつの出会いを大切にしてきた。だからこそ、新事業は成功への一歩を踏み出すことができたのだ。
ここで自社で名刺の制作を手がけ始めた。
同社に転機が訪れたのは7年前。北海道の大手飲料メーカーから、回収したペットボトルで名刺をつくってほしいと言われたのだ。
当時、その飲料メーカーでは再生紙で名刺をつくっていた。商品に多くのペットボトルを使っている同社としては、その回収したペットボトルでつくった名刺を使いたい。そんな印刷の依頼が来たのだ。
阿部氏はペットボトルの再生紙を扱っている会社を探した。ようやく、滋賀県にペット樹脂のリサイクルを手がける工場を見つけた。そこにペットボトルの再生紙の製造を依頼した。試作を重ね、完成させた。



Company Profile
丸吉日新堂印刷
北海道札幌市豊平区
福住1条1-12-1
資本金 1000万円
従業員 7人
011-853-9636
http://www.nissindou.co.jp/